

東奥日報

2021年(令和3年)1月17日(日曜日) (16)

学生の卒業制作 まちなかで公開

八工大「空き家キャンパス」

八戸

八戸工業大学が本八戸駅近くに開設している空き家を改修した「内丸サテライトキャンパス・アキヤブ」(八戸市内丸一丁目)で8～15日、同大感性デザイン学部の4年生2人が卒業制作を公開で行った。同学部の学生たちの活動を多くの市民に知ってもらい、さまざまな意見を今後の取り組みに反映させることが目的で、今回初めて実施した。

(近藤弘樹)

「地域との交流の場に」

高橋祐賢さん(22)の卒業制作は「展延する脆性的な日常」と題したインスタレーション(空間芸術)。新型コロナウイルスの影響で日常が変化している中、「日常とはもともと変化し続けているもの。光と影を使い、それを表現したい」と語り、ド

という。大学構内ではなく、まちなかにある場所で公開制作することについて、高橋さんは「作品の制作過程を見てもらえるのはうれしい。授業とは異なる多くのことを学びきっかけにもなる」、高野さんは「アキヤブが地域の人たちとつながり、交流する場になってほしい」と話した。

「日常」をテーマにインスタレーション作品を制作する高橋さん



わらを使って和紙を作る作業を行う高野さん



※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」